



ふねあいのひろば

第12号



4月14日-22日 岡山市・洛陽市友好都市締結15周年記念『岡山市民親善訪中団』(1班)



幅広い国際交流を目指して

会長 小坂 淳夫

会員の皆様方におかれましては、平素から本協議会の活動に対しまして、格別のご支援とご協力をいただき、心から厚くお礼申し上げます。

さて、昨年4月には、岡山市と洛陽市との友好都市締結15周年の節目を迎えました。その記念として「岡山市民親善訪中団」の一行145名が訪中し、市民レベルの交流を深めてまいりました。また、15周年の記念品として、岡山市からは桃太郎ブロンズ像を寄贈し、また、洛陽市からは石碑の贈呈がありました。

洛陽市とは、友好都市を締結して以来、芸術・文化・経済等の幅広い分野で交流を深めてまいりましたが、このたびの節目を機に、交流の輪が一層広がるものと期待いたしております。

また、平成8年度は、国際協力・貢献事業の新たな事業として、専門的な知識や技術等を持つ人を姉妹・友好都市等に派遣する「岡山市シニア技術協力者海外派遣事業」を開始いたしました。第1回目の派遣として、本年3月から2か月間、武道家をプロブディフ市へ派遣しているところであります。

新年度は、サンノゼ市との姉妹都市締結40周年にあたり、また、日中国交正常化25周年の節目の年に当たり、各種の記念事業を通して、新たな出会いと交流が芽生えるものと確信いたしております。

今後とも、会員の皆様方の一層のご支援とご協力を賜りながら、息の長い市民レベルの交流を進めてまいりたいと考えておりますので、何卒よろしくお願いたします。

岡山市・洛陽市友好都市締結15周年記念

岡 山 市 民

友好都市締結15周年記念 岡山市民親善訪中団に参加して

片山 主計

平成8年4月14日、岡山空港で盛大な壮行式をしていただき、我々訪中団145名は機上の人となった。

まず洛陽空港での『熱烈歓迎』の垂れ幕、カラフルで鳴り物入りの歓迎、そしてホテルでの歓迎レセプション。毎度のことながら中国式接待の方法に唖る。日本でこれだけのことが可能だろうか。「税金の無駄使いだ」という声はどこからか聞こえてきそうである。

次の朝、今回のメインである『15周年記念式典』が挙行される。両市長の挨拶に始まり、次々と代表の挨拶がある。どれも中国的威厳に満ちたものである。この大きなエポックに出会わせたことを幸いに思った。昨日と同様、洛陽外語学校の生徒による演奏での送迎である。彼等の中に私の知人の子どもがいた。先生にも知人があった。彼等はこのセレモニーに参加出来たことを真実喜んでいて、日本の学校なら「授業の遅れをどうしてくれるのか？」という声が聞こえて来そうだ。

その夜は洛陽の『牡丹祭り』オープニングである。5万人収容の競技場で、華やかなライトを浴びて、警察学校や師範大学の学生達が繰り広げる壮大なマスゲーム（牡丹や洛陽市をイメージしたもの）に、4月の薄ら寒さも、時間の経つのも忘れた一時であった。ここでもまた岡山なら「こんな金を使うなら、市民のために何かできんか」という声が聞こえてきそうである。中国の底力、洛陽の発展ぶりをこの目で見、肌で感じた旅ではあった。

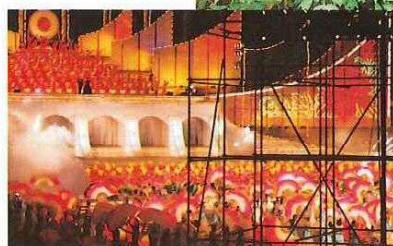


↑岡山空港からチャーター機で直接洛陽空港へ約3時間の空の旅。洛陽空港では市の関係者らが団を歓迎。



↑岡山市と洛陽市の友好都市締結15周年の記念式典にて、安宅市長から記念品（桃太郎プロンズ像）の目録を洛陽市長に贈呈。

王城公園にて洛陽の花・牡丹を觀賞。↓



↑4月15日に開催された洛陽牡丹祭のオープニングイベントの一幕。

親善訪中団

洛陽市との友好都市締結15周年を記念して、昨年4月14日から22日までの9日間、安宅敬祐岡山市長を団長とする145名が中国を親善訪問しました。洛陽市を訪問中の4月14日から16日の間は、記念式典に参加したほか、洛陽市人民政府、洛陽市人民代表大会を表敬訪問しました。また、洛陽市を出発したあと西安・敦煌・上海を訪れ、悠久の歴史と現代的な顔を合わせもつ中国を満喫しました。



↑洛陽市の社会福祉施設、婦幼保健院を視察。洛陽市の女性・乳幼児に関する医療制度や設備の概況の説明を受ける。

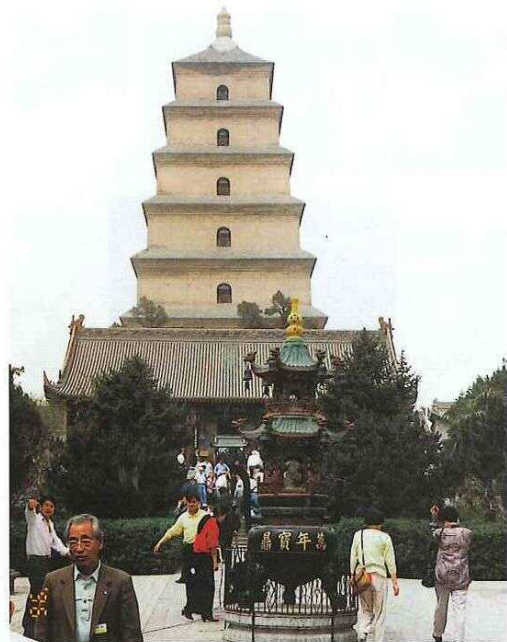


↑敦煌では、ラクダで鳴沙山のふもとまでしばし砂漠の幻想的な風景を楽しむ。



↑上海の社会福祉施設を視察。施設概要の説明を受けた後、実際に保育現場を見学。

三蔵法師の翻訳経典を納めるため建立されたという大雁塔。
西安市のシンボルの建築物。↓



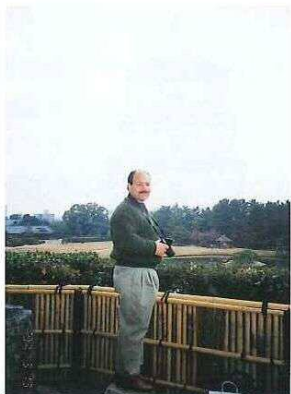
下町情緒いっぱいの店がひしめく
上海の豫園商場。↓



サンノゼ市より 専門家受入れ

サンノゼ市との間で行っている専門家交流事業により、3月18日から28日までサンノゼ市職員（ケリー・パーク公園管理者）のマイク・マックリントック氏が日本の庭園などの視察を目的に来日しました。

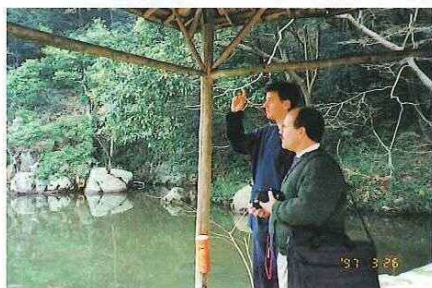
（ケリー・パーク公園とは、後樂園を模した日本友情庭園を包括する市の施設で、友情庭園のほか動物園、歴史博物館などがあります。）



↑ 後樂園を視察。



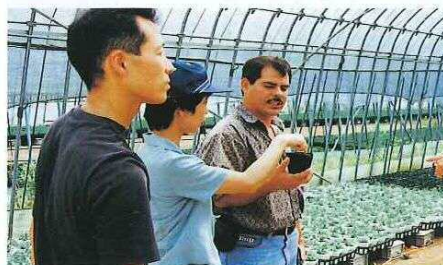
↑ 池田動物園を視察。



↑ 外国人僧侶の案内で曹源寺を視察。

第3回サンホセ市 技術研修生来岡

昨年7月1日から31日までの1か月間、サンホセ市役所公園課勤務のホルヘ・アルファンソ・サラス・ヒメネス氏が研修生として来岡し、岡山市公園緑地部緑政課に於いて公園管理等について研修を行いました。また、研修生と合わせてサンホセ市議会マリエロス・クビリョ・ロペス議員とマリエレナ・オルティズ・デ・テラン議員の二人が親善訪問のため来岡しました。



↑ 研修中のアルファンソさん ↓



↑ 岡山市長を表敬訪問



↑ 後樂園を参観

プロブディフ市 子供親善訪問団来岡

平成7年度の子供海外派遣事業で、市内の中学3年生15名を派遣したことに對する答礼として、昨年8月3日から16日まで、プロブディフ市より11才から19才までの子供親善訪問団一行22名が来岡しました。滞在中は、プロブディフ市へ派遣した生徒たちの家庭を中心とした同年代の子供のいる家庭にホームステイをしながら、言葉や文化の壁を越えた交流を深めました。



◀ 岡山市長を表敬訪問

日本文化体験 『折り紙』⇨
『茶道』⇩



⇩ 合気道一日入門



⇨ オリエント美術館見学



⇨ 見送りに来たホストファミリー
とのお別れ



⇨ 今後の交流についての
意見交換

プロブディフ市へ技術協力者派遣

岡山市の国際協力・貢献策の一環として、平成8年度から新たにボランティア精神に富んだ中高年者で、専門的な知識・技術等を有する人を姉妹・友好都市等に派遣する、「岡山市シニア技術協力者海外派遣事業」に取り組んでおり、このたび第1回目の派遣を行いました。

派遣者 竹村 玄山
(たけむら げんざん)
職業 日本伝武極玄成流合気道宗家師範
専門分野 武術(合気道、居合道)
派遣期間 平成9年3月4日～5月3日



竹村さんに、プロブディフ市技術研修生('95.8～11月)〔写真左〕、子供親善訪問団('96.8月)〔写真右〕の受入れをしていただいたときのひとこま。

洛陽市政府友好訪日団来岡

昨年10月21日から29日まで、劉典立洛陽市長を団長とする「洛陽市政府友好訪日団」一行8名が来岡しました。一行は岡山市長、岡山市議会議長、岡山商工会議所等の表敬訪問や当新田環境センター、岡山ふれあいセンター等の視察をされ、幅広い分野で理解を深めました。また、10月26日に開催した第1回中国語弁論大会に審査員として加わりました。



↑岡山市役所玄関にて職員に拍手で迎えられた訪日団一行。(写真は劉市長への花束贈呈のひとつま。)



岡山市長を表敬訪問。今後の交流事業等に関する協議が行なわれた。



↑歓迎レセプション(於:岡山国際ホテル)にて、市民からの温かい歓迎に笑顔で応える一行。



↑笠岡市議会幡司勝治議長を表敬訪問。↑



↳当新田環境センターを視察。職員の説明に熱心に聞き入っていた。

↳広島平和記念館を見学。



安芸の宮島を散策。↓



第1回中国語弁論大会開催

洛陽市との交流事業の一環として、昨年10月26日、岡山商工会議所に於いて「第1回中国語弁論大会」を開催し、応募者23名の中から書類選考により選ばれた10名（20歳から78歳までの女性7名、男性3名）が出場しました。大会は、5分間の弁論発表と1分間の中国語による質疑応答により審査され、ノートルダム清心中学校・女子高等学校教諭の森雅子さんが優勝しました。

なお、優勝した森雅子さんには副賞として中国旅行1週間が贈られ、今年3月10日から16日まで洛陽市等を訪問されました。



優勝者 森 雅子
 弁論テーマ 「未来に向かって
 ～外国語教育の新天地を開こう～」
 (面向未来～開拓外語教学新天地～)



準優勝者 今西 真美
 弁論テーマ 「日本人と和服」
 (日本人和民族服装“和服”)



第3位 広末 文枝
 弁論テーマ 「国際都市岡山の発展」
 (国際城市岡山的發展)



↑出場者、審査員全員で記念撮影

洛陽を訪れて

森 雅子

洛陽は“九朝古都”の名にふさわしく、龍門石窟、古墳博物館などの見ごたえのある旧跡が多く、豊かな街路樹が美しい都市でした。建設・交通のラッシュ、卸市場のにぎわいも活気にあふれ、高速道路が整備されれば産業都市としてさらに飛躍するものと思われました。

ささやかでも友好を深めたいという気持ちで準備をすすめ、市長訪問の際は和服で、茶箱を持参して歓迎会では抹茶を味わっていただきました。また、中国文化への敬意を表したいと李白の詩“春夜洛城聞笛”を半切の作品にして贈ったところ、その場で

劉市長から“中日友誼 萬古長青”の詞を返していただき感動しました。さらに希望にこたえていただき、日本の高校にあたる高級中学の授業参観が実現したことは、清心女子高校で世界史を教える私にとって一番の思い出となりました。英語の授業では生徒たちの真面目さと発音のよさに感心し、先生方からはカリキュラムについてのお話を興味深くうかがいました。その時いただいた中国の歴史教科書をこれからじっくり読みたいと思っています。

拙い会話力にもどかしい思いをしつつ、外事弁公室の方々に支えられ夢のように過ぎた一週間でした。日中国交回復25周年の今年このような経験ができたことを心から感謝しております。これからは若い世代の交流に少しでもお役に立ちたいと考えています。